《担当者名》 近藤啓、丸川活司

【概要】

病理組織および細胞診標本作製する基本的な工程について理解し、標本作製する技術を習得する。あわせて、各種疾患における特異的な変化を効果的に検出するための各種染色法について理解し、実際に標本を観察する。また、対象となる組織、細胞の変化の有無を判別できる能力を養う。本実習では1)病理組織標本の切り出し、2)固定、3)パラフィンブロックの作製、4)ミクロトームの使用法の理解、5)ミクロトームを使用した薄切標本の作製、6)染色液の作製とヘマトキシリン・エオジン(HE)染色、7)パパニコロウ染色、8)PAS染色、9)Gitter染色、10)Masson Trichrome染色、11)EVG染色、12)免疫染色、その他特殊染色を実施する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。